

事例2) 積雪による空き家の倒壊・道路閉塞事例

約30数年間管理不全状態だった空き家が豪雪により倒壊し、外壁等の倒壊材が前面道路(公道)を閉塞。自治体は危険排除のために空き家を解体、瓦礫を養生。解体等の工事期間を含めて3日間道路を通行止め。

■ 建物

築約40年のアパート付き住宅(面積約160㎡)

■ 所有者:死亡後に親族が相続

* 経済的理由により相続人自ら解体等が困難

■ 空き家の状況

昭和58年頃から約30年間空き家状態。

■ 経緯

- ・平成15年6月:屋根が崩落したとして、近隣住民が自治体に通報
自治体と消防署で現地確認後に、消防法に基づく危険除去の改善通知文を送付。
代理人を通じて相続人に口頭依頼
- ・平成20年6月:改善通知文を再付
* その後、屋根が崩落
- ・平成23年2月:豪雪により建物が倒壊、道路を閉塞。
自治体は、建物を解体し、解体後の残存物を水かけ養生するなど、危険を排除。
⇒危険排除費用:約274万円(自治体の負担)。
- ・解体跡地に雑草が繁茂するなど、解体後の管理が課題

